

裾野麗峰山の会・山行報告書		文・写真 GT
山行番	NO. 1902	
日時	2021/01/26日(火)	
山域	八ヶ岳・東天狗岳(2640m)	
コース	渋の湯下7:48-唐沢鉱泉分岐9:29-黒百合ヒュッテ10:20-中山峠- 最高到達点(約2500m)11:38-黒百合ヒュッテ12:24-渋の湯下14: 50	
標高差	上り 渋の湯下約1800m~最高到達点約2500m=約700m 下り 同上	
快適度	5(5段階評価)=藪はない	
参加者	後藤、加藤=2名	

これでイイのか、渋の湯御殿

今回は、八ヶ岳・天狗岳と富士山・上塚でした。25日は、L通過で大雪。当初、富士山予定でしたが、好天が期待され、急遽、天狗岳に変更。

3時前起床。長泉発4:30。寝不足感はなかった。天狗岳は西尾根が希望だったが、唐沢鉱泉まで除雪がないので、黒百合ヒュッテコース。渋ノ湯発下7:48。



渋の湯下に駐車

渋の湯「下」出発は訳があった。元々、7:20ころ渋ノ湯着。天狗岳はここ何年か唐沢鉱泉から西尾根を数回上っている。渋の湯から上るのは、2013年2月以来だった。そんな訳で駐車場など、どのような「作法」か、よく分からなかった。

例えば、唐沢鉱泉は、駐車場は無料で道路わきに適当に置く。赤岳方面の赤岳山荘は駐車場有料だが車で行って置けば、係りのオバさんがやって来て料金を払う。

今回もそんな感じで、いつもの駐車場の「ロープを開けて」車を置いた。

その間、相方が渋の湯に料金を持って行った。ところが（以前から何かと五月蠅かったバアさん）が凄い剣幕でやって来た。曰く「手続きは、渋の湯に車で来てやってくれ。ロープを勝手に外して駐車は、不法侵入だ。警察に通報するぞ・・・」



渋の湯駐車場

8年振りで駐車方法は分からなかったから、手続き前にロープを外して駐車したのは確かに申し訳なかった。しかし、これが、そんなに問題だったのか??!!

とにかく駐車できないことには、登山が始まらないので、相方は平謝り。しかし、バアさんは「頑として受け入れず、その辺に止めるなり、好きなようにしろ。林道に止めたら、レッカーで持ってくぞ」だった。ジジイも出て来たが、何としても翻意しない。

以前から「問題があり、必ずしも評判が良くなかった」渋の湯だが、ここまでとは思わなかった。こちらが決して高圧的な態度をとった訳でもない。結局、他の山移動案もあったが時間が勿体ない。仕方がないので、林道を下ったら、カーブの所に除雪スペースがあり車は置けた。やれやれである。山に上る前にこのようなアクシデントですっかり疲れてしまった。

過去、山小屋・山荘・ヒュッテのトラブルは何件かある。おおむね、「理不尽・横暴・横柄・理由不明」と感じる。古くは、甲斐駒・黒戸尾根の五合小屋（現在は無い）のF小屋オヤジ。

この方は、既に故人だが、「悪名は高かった」。同じ南アルプス、農鳥小屋のオヤジ。この方も「最悪の評判」だった。何故か南アルプスが多いような気がするが、思い過ごしか・・・。

記憶に新しい所では、2001年4月、北アルプス・蓮華温泉。詳しくは、下記URAだが、こんな山小屋もある。この時は、正に「ふんがい」した。

<http://susono-reihou.babyblue.jp/925.pdf>

<http://susono-reihou.babyblue.jp/926.pdf>

また、2007年10月、甲斐駒・黒戸尾根～甲斐駒～北沢峠の時、仙水小屋の対応にも驚いた。
<http://susono-reihou.babyblue.jp/223.pdf>



2007・駒津峰



仙水小屋

十数名で仙水峠から仙水小屋に下って来た。秋で喉が渴いた、小屋前の水場にホースから冷水がガンガン流れている。飲もうと思ったら「勝手に飲むな」の看板。この時点で「ム・ム・ム」だった。小屋の敷地の入り口に、何故かロープが張ってあった。ま、小屋などは「来るもの拒まず」だから、ロープは何の意味??だった。要は、ここも「勝手に入るな」だ。小屋のオヤジが顔を出したので、

「女子のトイレを貸して下さい」というと、

「ダメ」

「お金を払います」

「ダメ」

「北沢峠にあるので（歩いて約30分）そこで、やってくれ」

この間、理由はいわない。

「ったく～」

次に、

「ビールを売って下さい」

「ダメ」

「何故ですか??」

「俺がアンタにビールを売って、それをアンタが飲んで、酔って転んで怪我をして、俺が訴えられたら最悪だ??!!」だった。それから先は、もはや会話にならなかった。

山小屋の不条理・理不尽・無配慮・非常識は他にもある。2018年1月、八ヶ岳・赤岳鉱泉に泊まった。小屋は標高約2200m。1月だから周りは氷の世界。

小屋に入って驚いた。スリッパがないのだ。決して「床暖房」をしている訳ではない。まさか、そんなことはあるはずはないで、スリッパは持参しなかった。ま、それが普通だろう。

足が冷えるのは辛い。食堂で飲んでいても、何か落ち着かない。小屋の外は、マイナス15度くらい。室内でもゼロ度近い。

ところが、更に驚いたのは、そこで働いている従業員は、何としっかり「スリッパを履いていた」これは「虐待」だ。「虐待」のほか何物でもない。しかし、ここまでの「常識のなさ」は、一体何だろう。日本人もここまで落ちたか。



2018・赤岳鉱泉・・・スリッパなしで足が冷える

また、2006年12月、北沢峠・こもれび山荘に泊まった。小屋はどこも概ね自家発電。だから、就寝時間は早い。だいたい20時には消灯する。従って皆様、その時間に休む。

その時は、寝床が二階だった。翌日は仙丈岳登山だから、20時を過ぎてすぐ寝たが、何故か階下で「おしゃべりが続く」。しかも、そこに小屋番が加わっていた。小屋を管理する小屋番がこれではマズイ。

30分過ぎてもおしゃべりは続いていた。ここで私の我慢もブチ切れた。「コラ～、今何時だと思っている。消灯時間は20時だろう!!!」静かになり、スッキリした。これで快眠。

と、まあ、文句ばかりズラズラ書いた。それは事実だから、仕方がない。ただ、山小屋・山荘・ロッジなどは、当たり前だが、感じが良い所が多い。不快なのは一握りのところだ。

前述したが、そもそも、ほとんどの小屋は国・市からの借地で成り立っている。最初に書いた、

渋の湯駐車場は、国からの借地。いってれば、我々の税金が使われている訳。ならば、もう少し「謙虚な姿勢」があってもしかるべきではないのか。

小屋は、登山者に便宜をはかったり、手助けをしたり、時には啓蒙したりが、望ましい本来の姿。そのところを忘れてしまった昨今の山小屋は何としても残念である。



北沢峠・こもれば山荘

そんなこんなで、何とか駐車し登山開始。「いじわるバアサンは、何処にもいるのか??」
結局、その日、もう一台駐車したので、収入は、-2000円。

昨今、コロナで宿の客は多くはないだろう。己の首をわざわざ自身で縛ることはないと思う。そこまでの拘りは、何か不明である・・・。

久しぶりの黒百合ヒュッテの道だったが、長く感じた。渋の湯から約2時間半掛かる。やっぱり3時起床は、体に厳しいのか。ヒュッテに着くと、早くも空に雲が広がり始めた。ヒュッテ前に登山者が何人かいた。ここに昨年、会員のTが就職したが、3ヶ月で退職した。在職時に訪問を楽しみにしていたが、何で辞めたか不明。残念だった。

天気は下り坂。これは、モタモタ出来ない。中山峠を越えて、急な上りに入る。峠を越えると風が強くなる。

東天狗と西天狗が目の前に広がった。まだ、完璧に白くはなかった。昨日の大雪で深い雪に足を取られる。上から若い男女が降りて来た。下山が早い。

聞けば「東天狗岳下を上っている時、ポコッと音がして、キレツが走った」という。キレツは、二か所という。

音・キレツは、ある意味、雪崩を知らせるサインだ。つまり「雪・自然の声」だが、無視は出来ない。上って行くと、また、若い衆が降りて来た。聞けば、やはり「雪崩が心配だった」という。無理もない。ここ何週間か雪が少なく、山の積雪は多くなかった。そこに、ドカッと大雪が降った。他の記録でも、このところ雪崩の情報が多し。

音・キレツは、典型的な「新雪表層雪崩」の可能性はある。注意に越したことはない。下山した方々が到達した最高点に着いた。



黒百合ヒュッテ



左・東天狗岳 右・西天狗岳

標高は、約2500m。そこは吹きさらしで風は強い。従って極めて寒い。先は誰も歩いていない。ラッセルは厳しい。時間は12時・・・。

今回もここで、戦闘意欲がなくなった。お山は厳冬期で厳しかった。即、下山。下山も、やたら長く感じた。最近、「道が長く感じる」これも「老化現象か??!!」
渋の湯は、特に問題なかった。グッド・バイ・バアさん。また、来よう。いや、もう、ここは来ないかな??
(了)